

## 調査の要領

(業種別調査企業数と回答数の内訳)

	対象企業	回答数
製造業	74	70
卸売業	27	26
小売業	105	101
飲食業	31	29
サービス業	62	62
運輸業	13	11
建設業	64	61
不動産業	23	22
合計	399	382

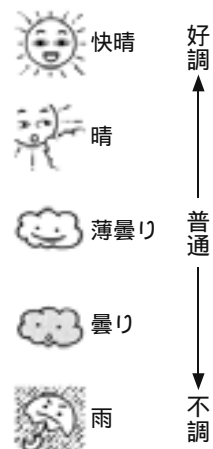
調査時期 6月上旬  
 調査内容 平成22年4月～6月の景況  
 平成22年7月～9月の見通し  
 調査方法 当金庫職員による聞き取り調査  
 調査対象 当金庫の取引先  
 回答数 382先(回答率95.74%)  
 (回収不能 17先)

お忙しい中、ご協力いただきまして大変ありがとうございました。お問い合わせは最寄りの営業店、または企画部《(019)623-2221》までお願いします。  
 次回調査(9月上旬予定)にも、ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

## 景況天気図

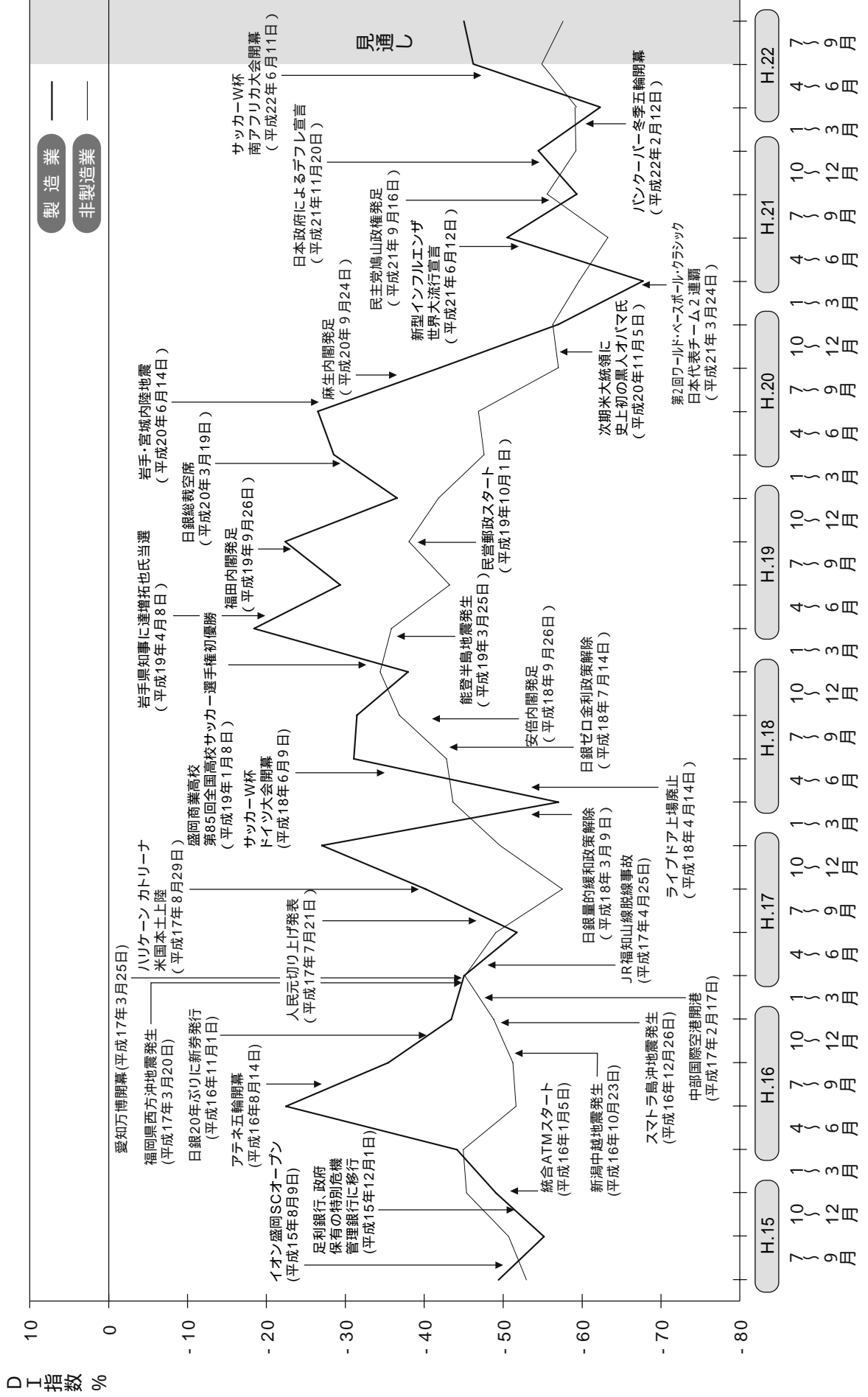
(景況調査の概況)

	平成22年1～3月期	平成22年4～6月期	平成22年7～9月期 見通し
全業種 (総合)			
製造業			
卸売業			
小売業			
飲食業			
サービス業			
運輸業			
建設業			
不動産業			



※この天気図は景況指数を総合的に判断して作成したものです。

# 製造業と非製造業の業況判断D I (季節調整済)



# 景況総合判断指数(DI)

平成22年 4 ~ 6月

前期 *DI	当期(平成22年1月~3月期に比べて)				景況	見通し(平成22年7月~9月期)			
	増加	普通	減少	*DI		増加	普通	減少	*DI
-60	8	30	62	-54	業況	7	31	62	-56
-38	19	27	54	-34	売上高	16	36	48	-35
-44	16	33	51	-35	収益	14	38	48	-36
-21	7	65	28	-22	販売請負価格	5	68	27	-23
6	23	68	9	13	材料仕入価格	16	73	11	3
1	14	72	14	0	在庫	11	72	17	-4
-39	5	54	41	-38	資金繰り	4	56	40	-37
-17	7	69	24	-15	残業時間	5	74	21	-16
1	15	73	12	-1	人手	13	74	13	1
-15	3	81	16	-12	設備の状況	3	79	18	-16

\*DI(Diffusion Index)は、増加企業割合から減少企業割合を差し引き、不変(普通)部分を除いて景況を判断しようとするものです。

\*「季節調整済DI」は、1年を周期として季節的な変動を繰り返すDIから、季節の変動を除去した動向指数です。

増加・普通・減少は右のように置き換えます。

	増加	普通	減少
業況	良い	普通	悪い
価格	上昇	変わらず	下降
在庫・人手・設備の状況	過剰	適正	不足
資金繰り	楽	変わらず	苦しい

## 業種別業況動向

(景況調査の概況)

	平成22年1~3月期		平成22年4~6月期		平成22年7~9月期	
	実績	前期予想	実績	前期予想	見通し	
全業種(総合)	-60	-62	-54	-57	-56	—
製造業	-63	-55	-47	-40	-45	—
卸売業	-84	-76	-45	-70	-48	—
小売業	-60	-59	-58	-56	-60	—
飲食業	-72	-66	-75	-71	-67	—
サービス業	-42	-61	-46	-54	-56	—
運輸業	-23	-72	-25	-40	-16	—
建設業	-63	-69	-58	-68	-60	—
不動産業	-72	-54	-58	-76	-68	—

\*DIは季節調整済 \*それぞれの右欄は前期に予想したDIを示す

## 景況

## 景況は緩やかに改善

今期(平成22年4月～6月期)の景況は、前期見通しの通り、全業種総体では「悪化傾向を弱め改善」となりました。業種別では飲食業、サービス業、運輸業を除き、他の業種で改善がみられました。特に卸売業が大きく回復し、製造業、不動産業も回復感を強め、小売業は穏やかに回復傾向が続いています。一方、飲食業は緩やかに悪化傾向を続け、不透明感を強めています。総体としては、小幅な改善となりました。

**業況判断指数**(季節調整済DI)は、全業種で-54と6ポイント上昇し悪化傾向を弱めました。製造業は-47と16ポイント上昇し、悪化傾向を弱めました。非製造業も-55と4ポイント上昇し、いくぶん悪化傾向を弱めました。

**売上額**は、-34と4ポイント上昇し、減少傾向を弱めました。

**収益**は、-35と9ポイント上昇し、減少傾向を弱めました。

**価格面**は、販売価格が-22と1ポイント下降し、悪化傾向を強めました。仕入価格は13と7ポイント上昇し、依然上昇傾向にあります。

**資金繰り**は、-38と1ポイント上昇し、わずかながら窮屈感を弱めました。

**業種別の業況**は、製造業が-47と16ポイント上昇し、悪化傾向を弱めました。卸売業は-45と39ポイント上昇し、大きく悪化傾向を弱めました。小売業は-58と2ポイント上昇し、前期に続き悪化傾向を弱めました。飲食業は-75と3ポイント下降し、前期に続き悪化傾向を強めました。サービス業は-46と4ポイント、運輸業は-25と2ポイント下降し、悪化傾向を強めました。建設業は-58と5ポイント上昇し、悪化傾向を弱めました。不動産業も-58と14ポイント上昇し、悪化傾向を弱めました。

**経営上の問題点**は、「売上の停滞・減少」が67%と前期に比べ3ポイント下降しました。同じく「同業者間の競争の激化」は39%と4ポイント下降しました。「利幅の縮小」は36%と前期に比べ2ポイント上昇しました。

## 来期の見通し

## 景況はわずかに悪化傾向を強める

来期(平成22年7月～9月)の景況は、製造業は緩やかに回復傾向が続くようです。飲食業と運輸業ではいくぶん回復するとみえています。サービス業は悪化傾向が続くとみえています。他の業種は、一進一退となりそうです。

**業況判断指数**は、-56と2ポイント下降し、悪化傾向を強めそうです。

**売上額**は、-35と1ポイント、**収益**は-36と1ポイントの下降にとどまり、大きな変化はないとみえています。

**価格面**では、販売価格は-23と1ポイントとわずかに下降傾向を強め、**仕入価格**は3と10ポイント下降し、上昇傾向を弱めるとみえています。

**資金繰り**は-37と1ポイントわずかに窮屈感が弱

まる程度と予想しています。

**業種別の業況判断**は、製造業、飲食業、運輸業で悪化傾向を弱めると予想しています。一方、卸売業、小売業、サービス業、建設業、不動産業では悪化傾向を強めると予想しています。

## 雇用の動き

**人手**は、今期-1と2ポイント不足傾向が強まりましたが、適正水準での動きとなりました。来期は1と2ポイント上昇し、前期と同様に小幅な動きで適性水準での動きになるとみえています。

**残業時間**は、今期-15と2ポイント上昇し、減少傾向を弱めました。来期は-16と1ポイント下降することとどまり、大きな変化はなさそうです。

## 在庫、設備投資の動き

**在庫**は、今期0と1ポイント下降しましたが、適正な状態で推移しています。来期は-4と不足感が出てきますが、適正に近い水準での動きとみえています。

**設備の状況**は、今期-12と3ポイント上昇し、不足感を弱めました。来期は-16と4ポイント不足感を強めるとみえています。設備投資を実施した先は、全業種総体で車両を中心に17%と横ばいで推移しました。業種別では、小売業、運輸業で増加となりましたが、他の業種は減少となりました。来期は卸売業、小売業が横ばいで推移するとみえています。他の業種は減少するとみえており、全業種総体では4ポイント下降し、13%の先が設備投資を予定しています。

**借入金の状況**については、今期借入れ実施割合が増加している業種は、飲食業、サービス業、不動産業のみで、全業種総体では26%の先が借入を実施し、前期に比べて3ポイント減少しました。来期は、製造業、卸売業、サービス業、運輸業が増加するとみえています。全業種総体では2ポイント減少し、24%の実施予定となりそうです。借入れの難易度は、「難しい」が20%と前期より3ポイント下降しています。

## 景況の推移

\* 前期比：DI・季節調整済

